

第4章

# 仮設住宅への 入居

第1節 仮設住宅入居 (30)

第2節 警戒区域の設定 (33)

第3節 元気バイ!!玄界 (34)

第4節 家財搬出 (36)

## 第1節 仮設住宅入居

### 1 仮設住宅入居までの経緯

地震により避難生活を余儀なくされた島民にとって、居住環境の安定と生活再建の基盤確保のため、早急に応急仮設住宅(以下、仮設住宅)を建設する必要があった。しかし、島のほとんどは斜面地であり、仮設住宅を建設できる平坦な土地は限られていた。

そこで、島を無人化させないことや漁の再開のために、島内にできるだけ多くの仮設住宅を建設することとし、半数の100戸を玄界島に、残り半数の100戸を漁港施設に隣接した福岡市中央区のかもめ広場に建設することを決定した。

用地の確保、戸数の決定、被災島民との合意を受け、福岡市から福岡県へ住宅建設の要請を行い、地震発生日から5日後の3月25日に玄界島被災者用の仮設住宅200戸の建設が決定した。なお、早期・大量に建設する必要があり、可能な限り島内に建設するという島民の意向を踏まえ、住宅タイプは全戸標準型である2DK(29.7㎡)とした。

そして、地震から約1ヵ月後の4月25日、26日の両日、それぞれの仮設住宅へ入居した。

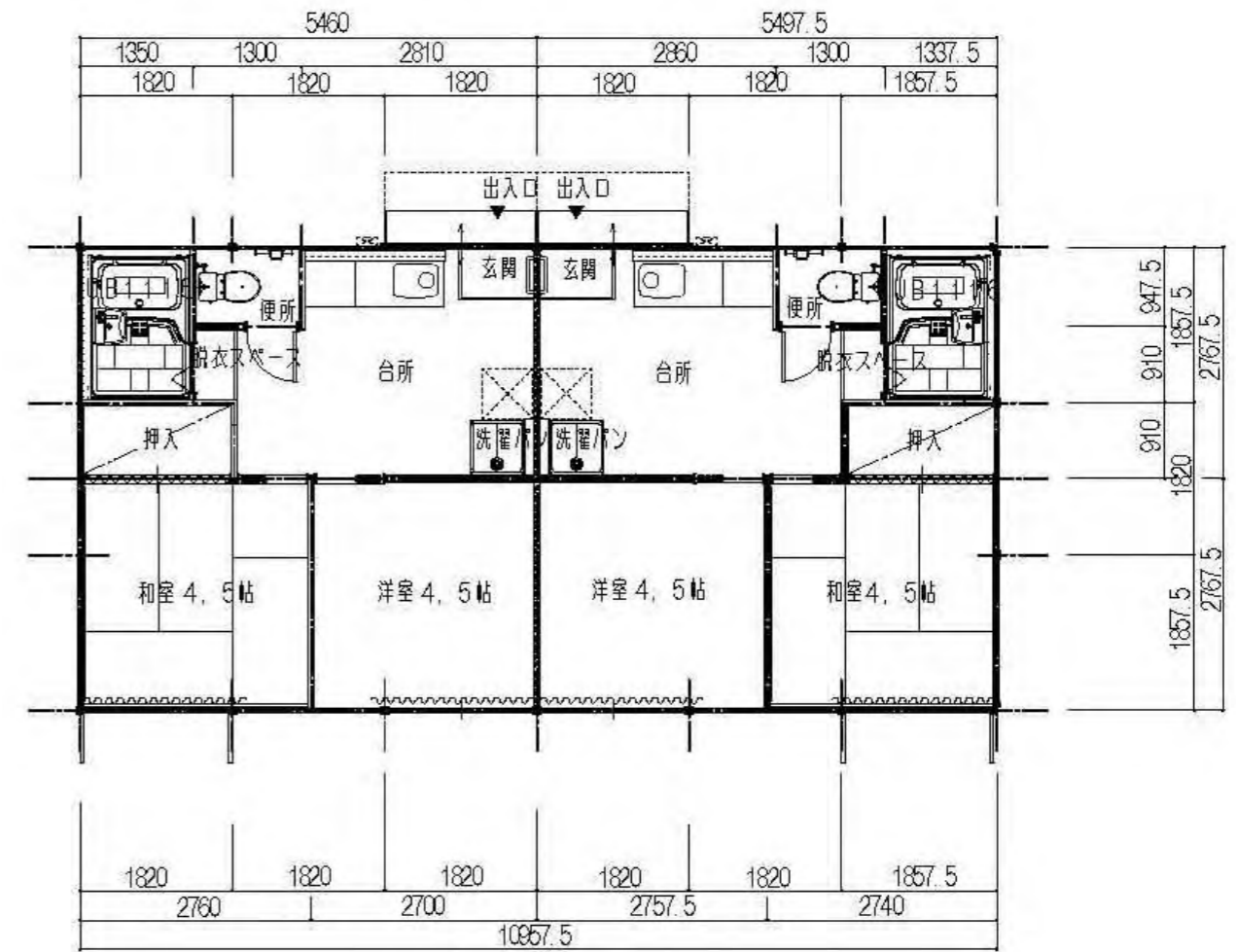
島の仮設住宅には、主に漁業者のいる世帯が入居し、かもめ広場の仮設住宅には、島で小中学校が再開できず、子ども達が市内の学校に通う必要があったことから、子どものいる世帯や漁業に従事していない高齢者のみの世帯などが入居した。

そのため、漁師である父親は玄界島で、学校に通う子どもとその母親はかもめ広場で生活するなど、島内外の仮設住宅に離れてしまった家庭も35世帯あったが、漁業者は漁を、子ども達は学校生活を再開し、生活は一定の落ち着きを見せた。

3月25日	仮設住宅200戸の建設決定
3月29日	仮設住宅建設工事着工
4月22日～23日	義援品の整理梱包、調達品の受入
4月24日	かもめ広場仮設住宅完成、義援品等の搬入 玄界島仮設住宅への搬入準備
4月25日	かもめ広場仮設住宅への入居 玄界島仮設住宅完成、義援品等の搬入
4月26日	玄界島仮設住宅への入居

場 所	戸 数	入居者数
かもめ広場	100戸	97世帯 243人
玄界島	100戸	98世帯 274人

### 2 応急仮設住宅の仕様等



応急仮設住宅平面図

主な設備:ユニットバス、水洗トイレ、照明器具、給湯器、ガスグリル、エアコン(各戸1台)、カーテンなど。

主な仕様:手すり等の高齢者対応、強風対策など。

### 3 市営住宅・教職員住宅の仮設利用

できるだけ多くの島民を島に帰せるよう、仮設住宅の設置にあわせ、比較的被害が小さかった自宅や市営住宅、教職員住宅等の利用を検討した。

市営住宅については、復旧工事が完了し入居可能であったことから、当初から空家であった1戸と、かもめ広場の仮設住宅など島外に居住者が移転したため空家となった6戸の合計7戸を仮設利用することとした。

教職員住宅についても、平地にある教職員住宅は被害がなく、本土側の仮設校舎で学校が再開されたことから、全8戸が空家となったため、仮設利用することとした。

自宅については、平地の安全な場所にあり、被害が少なかった寄木地区の7軒は入居することとした。

4 生活支援

入居者の生活が安定するまでの間、かもめ広場集会所に市職員が常駐し相談対応を行うと共に、玄界公民館への市職員派遣対応を行った。

また、入居時に保健師による「健康調査」を実施し、その後の見守りの必要な者に対して、定期的な「家庭訪問」を実施。6月から毎月一回玄界公民館及びかもめ広場集会所で「健康教室」も実施した。

5 義援品

市内外の企業、ボランティア組織、団体、個人から様々な義援品を受けた。また、仮設住宅への物資の搬入や引越においても、多くのボランティアの協力を受けた。

仮設住宅へ搬入した義援品等

種類	品名	数量	備考
日用衛生品等	タオル	1,400枚	
	トイレトーパー、ティッシュ、石けん、歯磨剤、歯ブラシ、シャンプー、洗面器	4,000点	市が一部新規調達
日用雑貨等	ほうき、ちりとり、ゴミ箱、バケツ	1,000点	市が新規調達
台所用品	鍋、フライパン、やかん、包丁、まな板、茶碗、急須、コップ、はし、スプーン等	6,200点	市が新規調達 (一部義援品)
家電製品	炊飯器	240台	義援品
	冷蔵庫	240台	
	洗濯機	240台	
食料品	米(5kg)	250袋	義援品



仮設住宅入居の様子

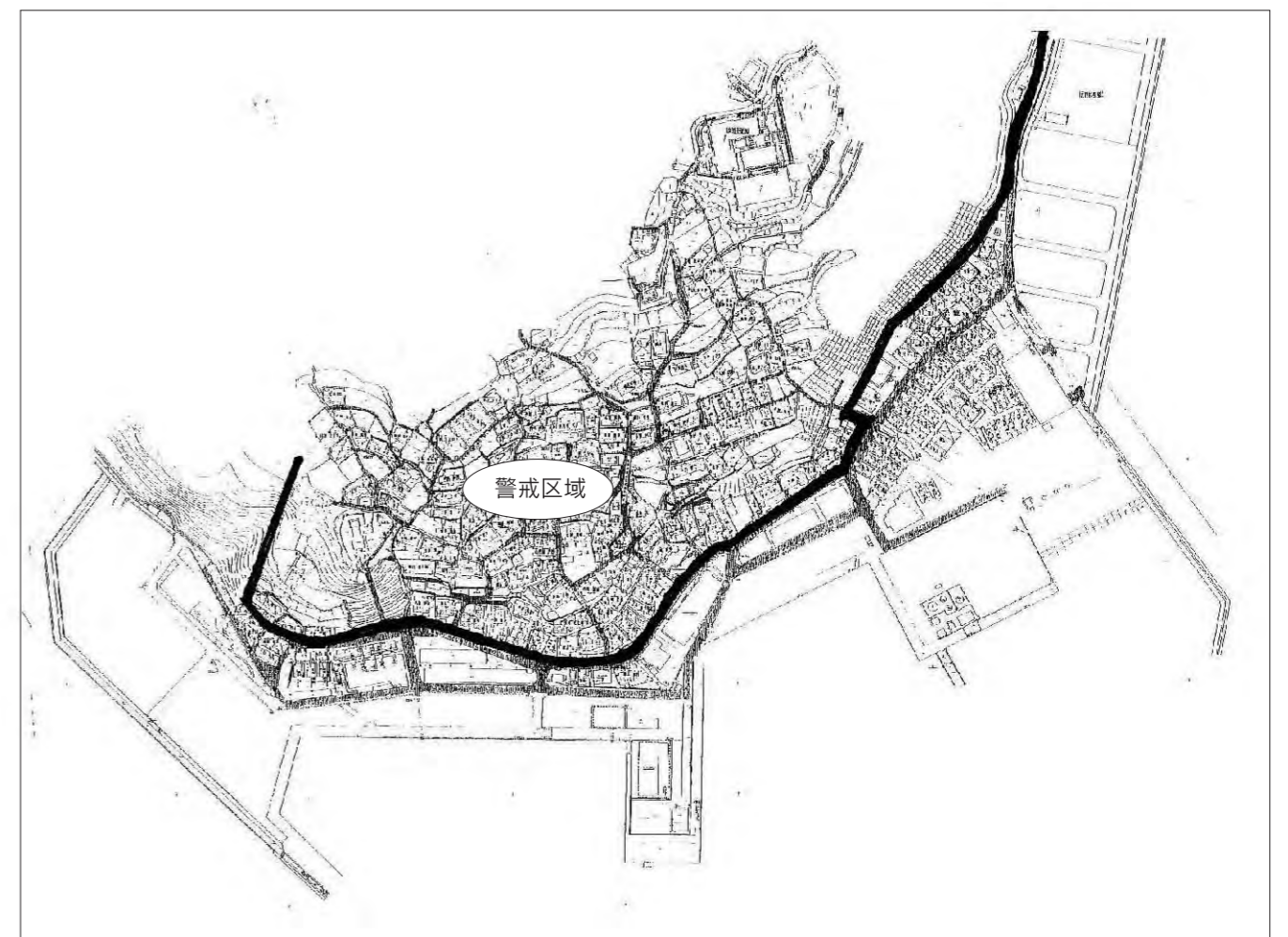
第2節 警戒区域の設定

島の斜面部分の居住地については、余震や土砂くずれなどによる二次災害のおそれがあったため、島民が帰島した4月26日から、災害対策基本法第63条に基づく「警戒区域」を設定し、立ち入り制限を行った。

目的 玄界島住民が仮設住宅等に入居し平成17年4月26日から島内で生活を再開することに伴い、住民や工事関係者、研究機関等の安全を確保するため。

設定日時 平成17年4月26日  
 ※斜面部分の造成が完了し土地基礎部分が安定したことに加え、梅雨等大きな風水害の危険が予想される時期も過ぎ、二次災害の危険性が少なくなったため、平成19年10月12日に解除した。

現地看板文 玄界島では、災害対策基本法第63条により、警戒区域を設定しています。これから先は警戒区域となりますので、市長の許可を得た者以外の立ち入りを禁止します。平成17年4月26日福岡市長



設定区域図

### 第3節 元気バイ!!玄界

#### 1 漁の再開

避難生活でお世話になった方々への感謝の気持ちを込めて、5月3、4日の「博多どんたく港まつり」で市民に魚を振る舞うため、4月30日に、41日ぶりに漁が再開された。

本格的な漁は5月5日から再開し、6日早朝に福岡魚市場へ出荷した。

#### 2 元気バイ!!玄界

福岡県西方沖地震に対する「全国からの支援に対する感謝」、「被害を被った方々へのより一層の支援のお願い」、「地震に負けず福岡は元気です!」を民間と行政が一体となってアピールするためのイベントとして「元気バイ!!ふくおか」キャンペーン（「元気バイ!!ふくおか」キャンペーン推進協議会主催）がゴールデンウィークおよび博多どんたく期間内に開催された。

このキャンペーンの一環として、島民は避難生活でお世話になった方々への感謝の気持ちと、漁が再開し島が元気を取り戻したことを広くお知らせするために「博多どんたく港まつり」に併せて感謝イベントを実施した。

##### ① 「元気バイ!!博多湾」ありがとうセール

日時 5月2日(月)

会場 協力店舗（市内百貨店やスーパーなど）

概要 玄界島で漁獲した魚介類と、福岡市漁業協同組合各支所から提供された新鮮な魚介類を協力店舗で市民のみなさんに安価で販売

##### ② 博多湾復興大漁パレード「元気バイ!!玄界」

日時 5月3日(火・祝)

会場 博多湾(玄界島～シーサイドもち浜沖～地行浜沖～博多ふ頭～玄界島)

概要 109隻(玄界島50隻,市内各漁協59隻)の漁船が玄界島に集結して、大漁旗及び「元気バイ!!ふくおか」ののぼりを掲げて博多湾をパレードし、玄界島で漁獲した魚介類をご支援いただいた市民のみなさまへ贈呈

##### ③ 「元気バイ!!ふくおか」どんたく隊

日時 5月3日(火・祝)、5月4日(水・休)

会場 どんたく広場（明治通り:呉服町～市役所前）

概要 「元気バイ!!ふくおか」キャンペーンどんたく隊に、市民の支援への感謝と「玄界島も元気です」との意味を込めて、大漁旗をもった玄界島住民71名(5月3日のみ)も参加し、総勢約300名でパレードを実施



漁の再開



ト口箱に貼られた「元気バイ」ステッカー



大漁パレード



お世話になった方々へ魚を贈呈



どんたくパレード



元気バイふくおかのキャンペーン

## 第4節 | 家財搬出

梅雨入りを前に、被災家屋から家財道具を搬出する必要があったことから、5月22日から31日にかけて、家財搬出作業を行った。搬入先は、被害が少なく、当時利用されていなかった中学校校舎および体育館とした。

体育館には、1区画3段の棚を231区画整備し、1世帯につき1区画を配分し、家財を保管した。布団や小さな家具などの保管が多かった。タンスや仏壇など棚に入らない大きな家財については、中学校の3教室に搬入することとし、スペースに限りがあることから1世帯あたり1つまでとした。

第2節で述べた警戒区域については、作業時間内は立入を許可し、本市職員で警備を行った。ただし、立入禁止家屋への立入は許可しなかった。

尚、作業にあたっては、市職員および庁用車を動員した。



家財を保管する島民



家具を運び込む島民



体育館に設置された棚



家具が運び込まれた教室